



一般社団法人 板硝子協会

令和7年12月

『板ガラス産業の2050年カーボンニュートラル実現に向けたビジョン2025』 について（お知らせ）

一般社団法人板硝子協会（会長 森重樹）は12月12日（金）「板ガラスリサイクルビジョン～ファーストビジョン2025～」の発表に先立ち、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた会員3社（AGC株式会社・日本板硝子株式会社・セントラル硝子プロダクツ株式会社）の方針を示したビジョン2022の改定版『板ガラス産業の2050年カーボンニュートラル実現に向けたビジョン2025』を発表しました。

ビジョン2025では、2024年度に立ち上げたサステナビリティ特別委員会の活動成果として、CO₂排出量及びカレットリサイクル量の2030年度マイルストーン、また2050年度に達成すべきカーボンニュートラルとカレットリサイクル量の最終的な数値目標を掲げております。

板硝子協会ではすでに住宅・ビルなどで消費される冷暖房エネルギーに対し高い省エネ効果が期待できる「エコガラスS」「エコガラス」の普及に努め、オペレーショナルカーボンの削減に力を入れておりますが、このビジョンに沿って、この数値的裏付けとなる「板ガラス製品のエンボディドカーボン算定ツール」の開発も完了しております。これにより一条件下におけるオペレーショナルカーボンの計算結果と組み合わせて『窓』のホールライフカーボンのシミュレーションが可能となりました。

私たちは今般、マイルストーンを明確にした『板ガラス産業の2050年カーボンニュートラル実現に向けたビジョン2025』に基づいて、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて努力し続けてまいります。



水谷委員長（右）と久田部会長（左）



プレス発表会場

以上.